令和８年１１月９日

保護者の皆様

江東区立越中島小学校
校長　　大木　直之

校内研究通信「かもめっ子」

【第４回】数字と姿で見えてきたかもめっ子の成長
～安心・安全な学級の土台～

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

第３号では、先生たちが失敗や葛藤を重ねながら、こどもたちに学びを委ねる授業へと挑戦してきた１年目のドラマをご紹介いたしました。

２年目となった今年度、こどもたちの姿にはどのような変化が生まれているでしょうか。今回は、今年度の実践の様子と、客観的な調査データから見えてきたこどもたちの確かな成長をお伝えいたします。

１　データが証明する自分で考え、深め合う力の高まり

今年度４月に６年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査（児童質問紙）」の結果において、本校のこどもたちの「主体的な学習態度」と「対話による思考の深化」を示す数値が、東京都や全国の平均を大きく上回りました。

【令和８年度　全国学力・学習状況調査（児童質問紙）より】

◆質問 39「５年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」

★本校の肯定的な回答：８７．７％（都・全国平均を大幅に超える！）

◆質問 42「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」

★本校で「当てはまる」と答えた割合：５４．８％（都・全国はいずれも約 43%）

これらのデータは、日々の授業で積み重ねてきた「自分で課題や作戦を考える学び」や「友達と意見を交わし合う活動」が、こどもたちの内側にしっかりと根付いている何よりの証拠です。

２　今年度（２年目）の授業で見られる当事者意識の広がり

今年度の授業では、さらに一歩進んで、こども自身が自分の生活や学びをマネジメントする姿が見られるようになっています。

○６年（家庭科）　こどもたちは、タブレットに記録した「自分自身の２日間の食事データ」から、「野菜が足りない」「炭水化物に偏っている」などの課題を発見。その課題を解

決するため、専門書やAI、栄養教諭への相談など自分に合った手段を選んで「３日目の献立」を自らデザインしました。人から与えられた問題ではなく自分自身の課題だからこそ、強烈な当事者意識をもって没頭する姿が見られました。

○３年（社会科）／２年（国語科）　型通りの進め方ではなく、「これについてもっと知りたい！」「友達のアイデアを詳しく聞いてみたい！」というこども目線の思考の流れを大切にした単元展開を行いました。

３　学びを支える土台は安心・安全な学級

こどもたちが自分から動き出し、友達と素直に学び合えるようになった理由の根本には、「失敗しても大丈夫」と思える学級の雰囲気（土台）があります。

講師の先生（早稲田大学・大村龍太郎准教授）からは、次のメッセージをいただいています。

「自分たちの力でより良い学級を作っていくためには、学級の中に『失敗しても受け入れられる』という安心感と他者への信頼が不可欠です。お互いの自由を認め合う土台があってこそ、真の自律的な学びが生まれます！」

「困ったら誰に頼ってもいい」「間違えても笑われない」という温かい土壌があるからこそ、こどもたちは安心して自分の考えを表現し、友達と深くつながることができるのです。

４　ご家庭でも育みたい自己肯定感とチャレンジする心

学校でのこの取り組みは、ご家庭での接し方とも深く響き合っています。

お子様が家で何かを始めようとした時や、うまくいかずに失敗してしまった時、ぜひ自分で考えてやってみようとしたプロセスそのものを温かく認めてあげてください。

「自分で決められたね」「失敗しても、また試せば大丈夫！」というご家庭からの励ましが、こどもたちの「自分は主人公だ」という自己肯定感と挑戦する心をさらに大きく育てます。

いよいよ次回は最終回、【第５回　１１月２０日研究発表会を迎えるにあたって～「みんな、かがやく！」越中島小へ～】をお届けいたします。

【全５回 連載予定】

第１回　なぜ今、越中島小の先生たちは授業を変えているのか？

第２回　学校で広がっている新しい学びの形

第３回　試行錯誤と葛藤のドラマ

第４回（今回）数字と姿で見えてきたかもめっ子の成長

第５回　１１月２０日研究発表会を迎えるにあたって